

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	い〜まCrea大治Ⅱ		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 27日		令和7年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 27日		令和7年 2月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 21日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心感をもってご利用いただけている。	褒めることを意識的に行っている。できることが当たり前ではなく、できていることを本人にしっかり伝えていくことで良い行動の定着を図る。事業所が子どもの居場所となるように、前向きな気持ちで活動できる場所となるように日々努めている。また、子どもの様子に変化があれば報告し、事故等があった場合の状況説明等は速やかに行うよう心掛けている。	現状に満足せず、指導環境としてより良いものを目指していく。日々のやり取りの中で、適宜適切な連絡、説明を行っていく。正しい言葉遣いや対応など接遇スキルの向上が事業所全体として必要。
2	子ども一人ひとりの課題に合わせた個別支援計画の作成。	モニタリング面談で聞き取りした内容や日々の取り組みの様子から目標の設定を行っている。目の前にある課題だけに目を向けるのではなく、その課題を達成するためにはどういった能力が必要となるのか考え、個別支援計画を作成をしている。	引き続き、研修やケースカンファレンスを通して知識や技術の研鑽を続けていく。
3	広くて清潔な指導環境。	基準以上のスペースがあり、個室やパーテーションの用意もある。体調不良やクールダウンをする際に使用している。また、指導終了後に必ず清掃を行い、清潔な指導環境を保っている。	毎日の清掃は継続する。設備の修繕はその都度行っているが、長く使用している備品も増えてきたため、安全に使用できるよう点検を実施していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所で行っている指導について発信が少ない。	帰り送迎の際にお渡しするい〜ま日誌に本日取り組んだ課題についてお知らせをしているが、項目のみであるため具体的な内容やその目的についての説明が十分ではない。また、実際に指導の様子を見ていただく機会もコロナ禍以降減っている。	モニタリング面談では日々の様子について聞き取りをすることが多く、取り組む課題について説明する時間が少ない。そのため、個別支援計画をお渡しする際に取り組む課題やその目的について丁寧に説明していく。
2	事業所を安全にご利用いただくため、非常時の対応や日々の訓練についての発信が少ない。	毎月1回避難訓練を実施している。その日に利用があった方についてはい〜ま日誌に記載されるようになってはいるが、それ以上の発信はできていない。マニュアルについてもご利用に際して関係することについてはお知らせしているが、説明が十分であるとは言えない。	安全にご利用いただくための取り組みについてモニタリング面談等の機会を活用し、発信していく。
3	家族支援の取り組みが少ない。	家族支援加算や子育てサポート加算の説明を行い、モニタリング時期以外にも相談支援の機会があることをお伝えしているが、それ以上のことはできていない。また、加算の認知度が低いのか、利用される方が少ない。	加算について再度発信していくことで、気軽に相談ができるようにしていく。